

2020 Business Report

第19期ビジネスレポート
2019年4月1日 > 2020年3月31日



ゲーム事業における着実な収益の積み上げと、 新規事業開発への投資を促進し、 総合エンターテインメント企業を 目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに「第19期ビジネスレポート」をお届けいたします。

当期は、既存ゲーム事業における運用中タイトルの収益性向上に注力したほか、株式会社バンダイナムコエンターテインメントの提供する新ブラウザゲームサービス「enza」においても、主要な開発・運用パートナーと



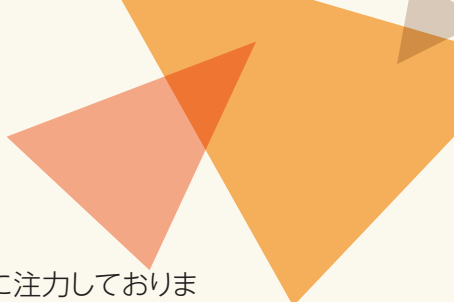
代表取締役社長 内藤裕紀

して、事業拡大に関与してまいりました。広告メディア事業では、広告代理事業の他、次世代の主力事業創出を目的とした新規サービスの開発・運用にも取り組みました。

エンターテインメントサービス

他社IPゲームにつきましては、主力タイトルを中心に引き続き安定的に推移いたしました。2019年5月及び2019年11月の周年イベントは引き続きユーザーの支持を集め、リリースからの経年を感じさせない好調な推移となりました。また、2019年8月、11月には当社が開発・運営に関与する新規タイトルがリリースされ、特に2019年11月に再リリースされたタイトルは、垂直的な立ち上がりとなり、想定を上回る収益寄与となりました。

オリジナルゲームにつきましても、リリースから10年近く既存ユーザーの満足度維持・向上に焦点を当てたイベント施策の実施により売上水準を維持し、底堅く推移いたしました。



しかしながら、当期は前期と比較して開発本数が少なく、前期において多く計上されていた開発売上が減少したことから、売上高は前期比で減少いたしました。利益については、前期に比べ不採算タイトルが減少したこと、過去1年間を通じ運用費の最適化を推進したことから費用が減少し、前期の営業損失から営業利益に転ずることとなりました。

2021年3月期におきましても、既存の主力タイトルで引き続きユーザーに訴求するイベントの提供を通じた収益力の強化・安定化に努め、主力事業である当セグメントの売上高、営業利益の増伸に努めてまいります。

広告メディアサービス

広告メディアサービスでは、広告代理業務の他、次世代の主力事業創出を目的とした取り組みの一環である『DRIP (Drecom Invention Project)』のもと、2018年8月に発表した位置情報と3DリアルマップによるARスマートフォンアプリ構築プラットフォーム『AROW』等、当社の有するインターネットサービスの知見を活かした新規サービスを試験的に立ち上げ、事業化に向けた試行を重ねました。

『AROW』では、ゲームアプリ企画コンテストの実施やメディアへの露出など、2021年3月期中の事業化に向け、サービス

の作りこみと、認知の向上に注力しております。

当社は、創業から18年、東証マザーズへの上場から14年を迎えました。数人の野心にあふれた大学生によって創業された当社は、目まぐるしい事業・技術変化の中でも、より優れた競争力のあるサービスの提供を目指し、果敢に挑戦を続けてきました。主力事業はブログ事業からゲーム事業まで大きく変化しましたが、創業来のドリコム精神である「with entertainment～期待を超える」の息づくドリコムらしいサービスを提供し続けてきたと自負しております。今後も、ユーザーの皆様の期待を超える、ドリコムならではの独創性と楽しみを感じられるサービス及び事業の提供と創出に取り組んでいきたいと思っております。今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



with entertainment ～期待を超える

当社が開発・運用に関与するタイトル3本の運用がスタート。 自社開発以外の運用パイプライン拡大も実施

ゲーム

既存 ゲーム

- 新規運用タイトルが3本加わり、運用タイトルは9タイトルに。2019年11月末にサービスが再開されたタイトルは、垂直的な立ち上がりとなり、その後も好調に推移
- (株)イグニスより人気IPタイトル「[ぼくとドラゴン]」等を譲受
- 不採算タイトルは減少も、引き続き収益性の向上を目指す
- 開発中及び運用中のゲームアプリ計2本につき、特別損失（減損処理）512百万円を計上

enza

- 2019年4月にリリース1周年を迎えたタイトルがユーザーの強い支持のもと、enza事業を牽引
- 事業開発段階を脱し成長軌道に。ドリコムのenza向け事業は黒字が常態化
- enza事業の一層の成長を目的に、ドリコムが保有する(株)BXD全株式を(株)バンダイナムコエンターテインメントに譲渡。特別利益（関係会社株式譲渡益）692百万円を計上

新規事業開発

- 主力のAROWでゲームアプリ企画コンテストの実施や、メディアへの露出などサービス開発と知名度向上に向けた試行を継続
- トrendにあわせた複数の新規事業を試験的に立ち上げ。小規模トライで可能性を模索

2021年3月期は、営業利益と手元資金の積上げを最優先しつつ、成長機会への投資も継続

前期

BS/PL/CFの改善を
重要視した経営

- ・ 営業利益、経常利益、純利益、全ての黒字化を達成
- ・ 純資産の増加と流動比率の高まり

新型コロナウイルス
感染症流行による
不況と市場の変化

今期

前期に引き続き収益性を重視。
安定的な営業利益と手元資金の
積み上げを最優先

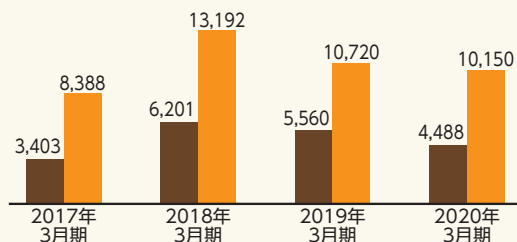
基本姿勢

攻め

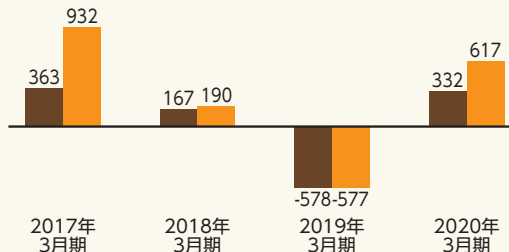
安定的な営業利益と手元資金の確保を前提
としつつ、機を見て、M&A等自社開発以
外での開発・運用パイプラインの拡大や、
ゲーム以外のエンターテインメント領域への
投資も継続

連結財務ハイライト

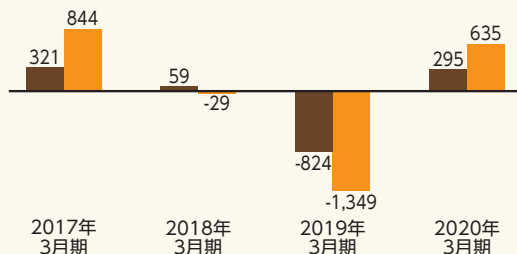
(単位：百万円) ■ 中間 ■ 通期

売上高 **10,150**百万円

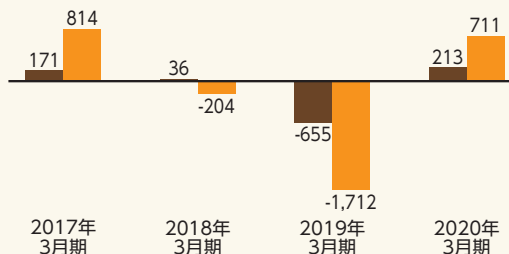
(単位：百万円) ■ 中間 ■ 通期

営業利益 **617**百万円

(単位：百万円) ■ 中間 ■ 通期

経常利益 **635**百万円

(単位：百万円) ■ 中間 ■ 通期

親会社株主に帰属する
当期純利益 **711**百万円

当連結会計年度におきましては、引き続き運用中のIPゲームタイトルが順調に推移した他、2019年8月と2019年11月に新たなタイトルをリリースいたしました。特に2019年11月から当社が開発運用に関与しているタイトルは垂直的な立ち上がりとなり、想定を上回る寄与となりました。また、2020年3月には株式会社イグニスより「ぼくとドラゴン」及び「猫とドラゴン」を譲受け、当社の完全子会社においてサービスの提供を開始いたしました。しかしながら、前期に比べ当期は開発本数が少なく、開発に伴う売上が減少したことから、売上高は前期比で減少いたしました。費用につきましては、「enza」や新規事業開発に向けた投資を継続したものの、「enza」が拡大フェーズに転じた他、既存ゲーム事業で不採算タイトルへの対応が完了したことや、運用コストが最適化されたことにより、前期比で費用が減少し、営業損益は営業利益に転じました。これを受け、経常損益、親会社株主に帰属する当期純損益は経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益に転じました。

以上の結果、当社グループの当連結会計年度の売上高は10,150,166千円（前期比5.3%減）、営業利益は617,072千円（前期は577,458千円の営業損失）、経常利益は635,890千円（前期は1,349,364千円の経常損失）、親会社株主に帰属する当期純利益は711,468千円（前期は1,712,709千円の親会社株主に帰属する当期純損失）となりました。

会社情報 / 株式情報 (2020年3月31日現在)

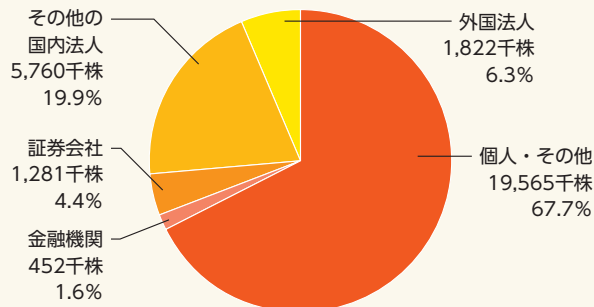
会社概要

商号	株式会社ドリコム
本社所在地	〒153-0064 東京都目黒区下目黒1丁目8番1号 アルコタワー17階
設立	2001年11月13日
資本金	1,735百万円
代表取締役社長	内藤裕紀
従業員数	326名(連結)
主な事業内容	モバイル/PC向けコンテンツの企画・提供、コンテンツ事業者に対する広告サービス提供、広告収益型メディアの開発・提供
連結子会社	株式会社ドリアップ 株式会社スタジオレックス

株式の状況

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	28,894,000株
株主数	8,503名

所有者別株式数



役員 (2020年6月25日現在)

代表取締役社長	内藤裕紀
取締役	後藤英紀
取締役 監査等委員	青木理恵
取締役 監査等委員	村田雅夫
取締役 監査等委員	清水勝彦

(注) 青木理恵氏、村田雅夫氏、清水勝彦氏は社外取締役であります。

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
内藤裕紀	9,930,000	34.38
株式会社バンダイナムコホールディングス	5,532,000	19.15
山口憲一	540,400	1.87
廣田証券株式会社	481,213	1.66
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)	423,300	1.46
J.P.MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 1300000	402,400	1.39
澤 由作	400,000	1.38
楽天証券株式会社	275,200	0.95
GOVERNMENT OF NORWAY	223,400	0.77
株式会社SBI証券	191,400	0.66

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ
公告して定めた日

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】
証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
(郵便物送付先) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎0120-782-031

(インターネットホームページURL)
<https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【特別口座について】
株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法 当社のホームページに掲載する。
<https://www.drecom.co.jp/ir/kessan/>
上場証券取引所 東証マザーズ



ホームページのご案内

当社webサイトでは、最新ニュースや様々な情報を発信しておりますので、ぜひご覧ください。

<https://www.drecom.co.jp/>

TOPページ



<https://www.drecom.co.jp/ir/>

IRページ

